

自ら学び、共に生きる

学校長 青山 直志

先月20日(金)の春分の日、第87回卒業証書授与式が行われました。卒業式とは違うの？と思われる方もいらっしゃるかもしれません。「卒業式」は教育課程の修了を祝う式典全般のことで、式典の中で卒業証書を授与する形式を「卒業証書授与式」と呼びます。その卒業証書を授与する場面、本校では校長と握手をするというのが伝統です。在校生は5年生以下全員が出席、その後ろには保護者の方々、ご来賓も多数いらっしゃる中で、卒業生は大変緊張していました。それが如実に現れていたのがその握手で、手のひらにはしっかりと汗をかいていました。ただ、マイクに拾われない程の声で「卒業おめでとう」と声を掛けると、一瞬ではありますが、頬を緩める卒業生でした。

翌週24日(火)は修了式、6年生のいない体育館はなんとなく寂しく感じましたが、あと数日でひとつ上の学年、特に5年生は最上学年になるという自覚に満ち溢れていたように私は感じました。そして4月6日(月)に新6年生は前日登校をし、翌日から始まる令和8年度の準備を行うのでした。

さて、本校はこれまで、国際バカロレア (IB) の認定校として、児童一人ひとりが自ら問いを立て、世界とつながる「探究の学び」を大切に参りました。本年度も、このPYP(初等教育プログラム)をさらに充実させ、本校の特色を最大限に活かした新しい教育課程の開発・構築に全力で取り組んで参ります。

また、今年度の学校経営においては、その理念を「自ら学び、共に生きる」としましたので、次に掲げる3点についてご説明したいと思います。

第一は「探究プログラムと生活指導の融合」です。IBが掲げる「学習者像」に基づき、他者を尊重し、多様な価値観を認め合う心を育てます。生活指導主事を中心とした多層的な見守り体制を敷くとともに、人権教育を推進し、いじめを許さない、誰もが安心して過ごせる学校づくりを徹底いたします。第二は「安心・安全とマナーの向上」です。南棟2階に新設しました「相談室兼 特別支援教室」(旧PC室)を核として、一人ひとりに寄り添った相談活動と特別支援教育を充実させます。同時に「廊下を走らない」等の校内安全、公共交通機関を利用する登下校のマナーの徹底、さらには情報モラルの向上にも注力してまいります。これらは「共に生きる」社会の一員としての基盤となるものです。

第三は「持続可能な教育環境の構築(働き方改革)」です。今年度より「新しい生活時程表」を導入し、教員が教材研究や児童と向き合うための時間を確保するとともに、AI等の先端技術を積極的に活用して業務の効率化を図ります。また、行事の精選とスリム化を断行し、より効率的で時代にマッチした教育活動を展開いたします。教員が心身ともに充実した状態で教壇に立つことが、子供たちに最善の教育を届ける近道であると考えます。先日お配りした年間行事予定表には「秋の全校遠足」や「菊の子展覧会」等が削除されていることにお気づきのことと思います。

「自ら学び、共に生きる」・・・全ての菊の子とそれを支える教員で、この理念を一步ずつ具現化して参りたいと考えております。本年度も、保護者の皆様の、菊の園の教育活動への変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。